

●卓 話 スライド「石油と製油所」

外面(そとずら) 作家 土岐 雄三

企業経営最高責任者一ひらたくいえば、社長さんがこれが八百屋、魚屋さんの有限会社ならともかく、株式会社となると、その地域の一応「名士」となり、いやおうなく社外活動にひっぱり出される。

そして、その社外活動なるものは、原則として、彼の経営する主たる業務に直接の利益と無関係のものが多い。日くロータリー・日くライオンズクラブ・日く商工会議所・日く経済同友会等々。いうまでもなく、これら諸団体に入ってなにやかにや社会奉仕をしたり、経済界全般のお役にたつことには、それはそれなりに充分意議はあるであろう。

意議があるばかりでなく、地域社会にカオが売れることになり、間接的には、営業のプラスになることだって充分あり得る。しかし、モノには自ら限度がある。商売そっちのけで、社会奉仕につとめることが果たして「社長」として是か非か。つきあい程度に顔を出している限りは問題もあるまいが、重宝がられて「ここは是非ともあなたでない」とかなんとかおだてられ、社業を忘れてとび廻っていることは結果的にみてあまりカンパシからずということだあってありえるのだ。

社長として、カオが売れることは企業にとってプラスもあろうが、売れすぎてもあれもこれも押しつけられ、商売そっちのけで社会に奉仕してみても、社運隆昌とはいきかねる。かと云ってあれも断わり、これもご免では話にならんだろうが、どの辺に一線を画するかが、これがかなり問題になる。いうまでもなく、社長は企業のオン大将、経営、人事全般の事案に目をひからせ掌握しないとトンダ目に合う。

東京のある割烹店での話だが、あるじが調理場に出御遊ばすか遊ばさないかで、大鯛の刺身をつくらせて一人前は違うという話を聞いたことがある。オン大将が調理場に坐っているだけで一人前余分に刺身がとれると云うことだ。企業競争いよいよ熾烈を極めるこれからの情勢で、あるじ、社長はしっかりと全体をにらんでいなければならぬ。仕事を倅にゆづったご隠居さまならともかく(こういう人は概ね「社長」から「会長」におさまっているが)現役バリバリの社長は、なにを措いても、社業第一、世間に重宝がられていい気になることは十二分に自粛、警戒を要する。社長の内面(うちずら)は外面(そとずら)よりも重要だろう。なぜなら、内には多数の社員がい、彼らとその家族の幸、不幸はかかって社長の彩配にあるからだ。むずかしいことだろうが、その内と外との使い分けが社業進展に大きな役割りを果たすのではあるまいか。

(近代中小企業、社長専科ヨリ)

●ニコニコボックス

1. 大井会員、佐々木会員、100%出席を記念して
2. 結婚祝、佐々木会員 おめでとうございます。
3. 大井会員、何んとなく

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
46. 10. 13	45名	30名	15名		
46. 10. 6	45名	30名	15名	15名	100%
在函クラブ	(9/30) 函館R.C. 95.87%	(10/5) 函館東R.C. 98.82%	(10/1) 函館五稜郭R.C. 100%		

次回例会日 10月27日

プログラム「ガバナー公式訪問」

(吉井会報委員)

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所
函館市若松町15-7拓銀ビル9階
ロータリー合同事務所
☎. (0138) 23-3870



例会場 函館市若松町拓銀ビル7階
五島軒駅前支店
例会日 毎週水曜日 12:30-13:30

1971. 10. 27.

1971~1972 第16号

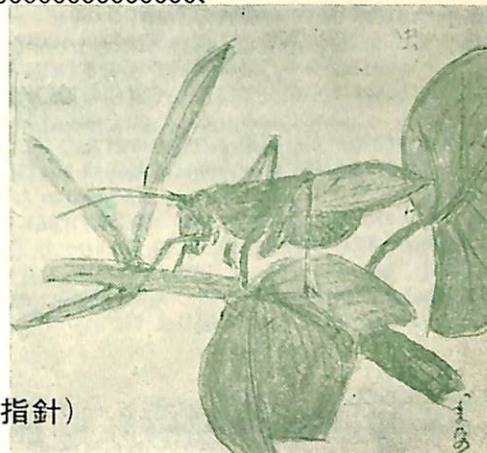
第371回例会

Good Will

Begins With You

善意は先づあなたから

(ブライツホルツ R. I. 会長指針)



俣野純夫 会員

本日のプログラム

「ガバナー公式訪問」

第370回例会記録

- 司 会 船矢健喜智会長
- ゲ ス ト 北海道銀行函館支店長 角田 浩一氏
- ビ ジ タ 札幌西R.C. 岡田袈裟吉君 (水産物卸売)
- 小樽南R.C. 小松 清君 (保存食品製造)
- 函 館R.C. 飯田 真一君 他 8名
- 函館東R.C. 柴田 英正君 他 10名
- 函館五R.C. 前田 憲司君 他 2名
- 斉 唱 手に手つないで

●会長報告
俣野会員が旅行されまして台北東R.C.と宝塚R.C.のパナーを持ち帰られましたので回覧致します。

●幹事報告
1、10月15日後6時より当会場に於いて第二回クラブアッセンブリーを開催致しました各委員長より現在迄の活動報告更に今後の活動計画についての活発な発言があり9時過ぎまで討論致しまして有益な一夜を過ごす事が出来感謝致します。

2、第3回クラブアッセンブリーを10月26(火)、午後6時より、五島軒本店に於いて行います。理事、役員、各委員長は必ず出席する様願います。当夜はガバナーを迎えるのアッセンブリーですので多数御出席下さい。

3、例会日変更のお知らせ

a、松前R.C.10月22日は公式訪問の為18時より横浜旅館に変更

b、東京日本橋R.C.11月9日の例会は17時30よりパレスホテルに変更

●函館東R.C.新谷武四郎会員離函挨拶

此の度私は弘前にあります東奥義塾という男子の高等学校の塾長に就任する事になりました。前塾長が本年二月肝臓癌で死去されて以来、塾長の席が空席のままになって居りました所、はからずも私に対して就任の要請があり、私としても出身校でもあり、又長い間勤務した職場でもありましたので承諾する事になった次第であります。ただ遺愛女子高校の校長がまだ決まって居りませんので、ここしばらくは両校の校長を兼務する事になって居ります。当分の間は津軽海峡を往復しなければなりません。当地に参り、ロータリークラブに入会させていただき8年がたちました。此の間皆様の御力添いにより東クラブの会長もさせていただき誠に御世話になりました。

一応来週火曜日の例会を最後にロータリークラブを退会する事になりましたが、出来れば弘前でもロータリアンとしてお役に立ちたいと考えて居ります。今後ともよろしく御厚情たまわります様お願い致します。弘前へおいでの節はどうぞお立ち寄り下さいます様心からお待ち申し上げて居ります。

●ニコニコボックス

1、岩塚会員：100%出席を記念して

2、布目会員：アッセンブリー欠席のおわび

3、飯田会員：結婚記念日おめでとうございます

4、函館東R.C.新谷会員：長い事お世話になりました

ニセコで拾った話、 富田 恭ガバナー

8月18日倶知安R.C.の公式訪問協議会を終えてから中井さんの車で送って頂き昆布温泉のグランドホテルに旅装を解きました。久しぶりで山の湯に浸り、あんまをとって旅の疲れを慰めましたが、その時に呼んだあんまさんの話。彼は齢既に72才、眼の不自由な老翁でしたが、治療しながら色々の話を聞かせてくれました。自分は長い間人様のお世話になって暮してきたが、世の中のお役に立つことは何一つしてないので、せめて亡き後に何か残したいと思い、2~3年前から自分で土地を開墾して桜の苗木を植えているが根付きが悪くて困っているとのこと。又旅をした時世話になったパスガイドさんにお礼状を出し、顔の化粧には金がかかるが心の化粧には金がかからずいつまでも美しさが消えない、あなたも心の化粧をされて何時も親切な良いガイドとして人に喜ばれてほしいと書き送るとのこと。これに対してパス会社の幹部からも感謝の手紙を貰っていると。私はウトウトしながら聞いていましたが、ほんとうに良い話を聞かせて貰いました。これこそロータリーの精神にかなうものであり、立派な職業奉仕に通じるものではないでしょうか。 思わぬ処で何よりの拾い物をさせてもらいました。これもガバナーをお引受けした余得ではないかと感謝して居ります。

ガバナー月信第5信より

ロータリー財団週刊 11月15日~21日

●卓 話「ソ 連」北海道銀行函館支店長 角田 浩一氏

この度北海道中小企業家同友会主催の「貿易促進・経済視察・防ソ使節団」に特別参加として派遣され延べ8日間にわたりソ連の旅をして参りました。短期間の見聞でありますので見当違いのこともあろうかと思いますが、見たまま、聞いたまま、感じたままをお話し申し上げます。今回の視察旅行は、北海道中小企業家同友会によって企画されました。此の会の会長は小樽の三馬ゴム社長、吉村伝次郎氏であります。たまたま今年の6月、ソ連札幌総領事のバンドウラーさんと対ソ貿易のことについて懇談した折、百聞は一見にしかず、是非見て来て下さいとすすめられ、今回の訪ソとなったわけであります。9月2日、当行本社で行なわれた壮行会には堂垣内知事も出席されるほどの熱の入れ方でした。事情があって吉村氏に代って小樽-光合金社長井上氏が団長代理となり「きばらず、あせらず、あきらめず」をモットーにしながらも、未知の世界に対する好奇心に胸をおどらせ札幌をあとにしました。一行は貿易促進をテーマとするA班8名と経済視察を主とするB班に分かれ、私はA班に所属しましたが、そのスケジュールは概略次の通りでした。9月3日(金)羽田空港発(飛行機2時間40分)ハバロフスク着、ハバロフスク州執行委員会訪問。9月4日(土)ハバロフスク発(飛行機8時間)モスクワ着。直ちに列車でレニングラードへ(車中泊8時間35分)。9月5日(日)レニングラード着、市内観光。9月6日(月)レニングラード発(飛行機55分)モスクワ着。9月7日(火)モスクワ滞在、市内観光。9月8日(水)ソ日協会、全ソ商工会議所訪問、モスクワ発ハバロフスク(機中泊)。9月9日(木)ハバロフスク着。9月10日(金)ハバロフスク発(飛行機)羽田着、直ちに千歳へ飛び当行本店に於いて帰国報告。以上がその旅程であります。

ハバロフスクの印象—飛行機がハバロフスクに近づくにつれて、眼下にアムール河の雄大な流域が展開して参りました。河というよりも見渡す限りの水郷地帯で、大小無数の湖沼が郡がって居り、特に今年は大雨の為水かさが増したのだという事でした。ハバロフスク空港ビルは日本の明治・大正時代を思わせる古めかしいたずまいで、高い天井から吊されたシャンデリアには白熱灯の裸電球がともって居りました。また待合室には随所にレーニンの写真を表紙にしたパンフレットが数多くおいてあり、いよいよ共産圏にはいったのだなという感を深めました。ハバロフスクは人口45万人。アムール河の右岸、ウスリー河との合流点にひらけた街です。1650年有名な探険家パバロクによって開かれた町で、シベリアに於ける交通の要衝であり、ナホトカとの間には急行で15時間の直通列車が往復して居り、モスクワ、サハリンなどへの空路の中心をなして居ります。また教育施設も多く、市内には医科、鉄道、体育、教育、工業、文化の6つの単科大学があり、四万人の学生がここで学んで居ります。私共が訪れた時の気候は丁度北海道の十月を思はせる頃と見受けました。

私共日本人にとって関係の深いことは大戦直後、ここに日本人抑留者の本部があった事です。市役所や、共産党の高級学校は日本人の建てたもので、最後の抑留者は1956年迄此處に居たという事でした。ハバロフスクを訪れる日本人は必ず日本人墓地に参ります。墓地はソ連人の中によってよく手入れされており、墓前には沢山の花が手向けられて居りました。私自身、過ぎし昔の抑留生活を偲び、異郷で死んで行った同胞の霊よ安かれと心より祈った次第です。

ハバロフスク州執行委員会 3日午後ハバロフスクに着いてすぐにA班B班合同で州執行委員会を訪問しました。州の執行委員会は北海道で云えば道庁に当るもので、この議長は知事に相当します。私達は此處で、道知事からの議長宛に、札幌市長からハバロフスク市長宛に夫々託されたメッセージをとどけました。一行には渉外部長のプラトノフ氏と沿岸貿易部長のパノフ氏が別個に会ってくれました。プラトノフ氏の話では、ソ連の冬季オリンピック選手達はここで強化訓練に励んで居るという事でした。パノフ

氏とは貿易の促進について互に意見を交換し、日本は資本主義国家の中で最も貿易量が多い国である事を高く評価して居りました。そして日本は今後、ソ連から大いに原料を買うべきであると云い、この為にはまず人と人が知り合うことが大切であると述べて居られました。

生涯で一番長い日—イルクーツクに廻るB班と別れて、私達A班は9月4日午後3時50分ハバロフスク飛行場をあとにしてモスクワに向いました。飛行機は東京—モスクワ間を飛んでいるのと同型機で座席数は168でこれが二つの部屋に分かれています。たまたま日本人の団体客が乗りこんだのでしょうか。どちらを見ても日本人ばかりで外国の空を飛んで居るとは思はれません。数えて見たところ、一室102座席のうち、日本人以外の乗客は25名ぐらいに過ぎませんでした。インツーリスト(国営旅行社)のガイドに尋ねたところ、ソ連を旅行する外国人の約80%は日本人。次に多いのはアメリカ人で、アメリカ人は老人が多いのに反し日本人は若い人が多いと云う事で、我々の機中でも私達一行を除けば殆んどが若い人達で、中には新婚らしいカップルも見受けられました。

ハバロフスク—モスクワ間の飛行時間は8時間で料金は108ルーブル(約4万円)、ハバロフスクを合わせた時計が午後11時を過ぎて一向に日は沈みません。雨あがりのドモジエートボ飛行場に到着したのはハバロフスク時間で11時50分でしたが、時差の7時間を修正すればモスクワはまた午後の4時50分だったわけです。此の飛行場からモスクワ迄バスで約1時間、ポリショイ劇場のすぐ近くにあるメトロポールホテルで夕食をとった後、レニングラード行きの列車に乗る迄、ウクライナホテルにある事務所まで時を過しました。午後11時50分発の寝台車に乗りこんで就寝したのは午前1時すぎ、これをハバロフスク時間になおすと5日の午前8時で4日の晩は完全に徹夜したわけで、一行にとってこのいち日は31時間、生涯で最も長い日であったというわけであります。

円とルーブル—私達が日本を出発する直前の9月1日、ソ連政府はルーブルの対日本円レートを切り下げ、これまでの千円=2ルーブル52カペイカを、千円=2ルーブル65カペイカに変更しました。1ルーブルは従来の397円から377円となったわけです。私達は円をドルに変えずに全額円を持って出かけましたが、ルーブル切り下げのおかげでトクをする結果となりました。モスクワに着いてすぐ、空港ビル内の両替所で2万円の両替を依頼しましたところ、ソ連貨幣で52ルーブル73カペイカを受取りました。千円=2ルーブル65カペイカの新レートで53ルーブル。これから手数料として0.5%の27カペイカを引かれたわけですが、もしルーブルの切り下げがなかったとすれば手取額は50ルーブル15カペイカなので、差し引き2ルーブル58カペイカ(973円)トクした事になります。思わぬところで日本円の強さを身をもって味わった次第です。此の様にして両替したソ連通貨ですが、実際にはあまり使わないでしまいました。それは外国人旅行者の為のドルショップがホテルの中にあつて、そこへ行けば円やドルで品質の良いものを市価の半額位で買う事が出来たからです。

レニングラードの観光—(省略)

貿易省、ソ日協会、全ソ商工会議所—9月7日ソ連貿易省を訪問しました。これは貿易促進をテーマとする私達A班にとって、今回訪ソのヤマというべきもので、日本担当の輸出部長であるクシャトヤン氏が応待され、次の様な見解を示されました。即ち(1)日本との貿易を更に拡大する様努力してゆきたい。(2)見本市を日本で開催するかどうかは未だ決定していないが、その必要性を検討中である。(3)日本は木材、魚以外の品物に対してもっと関心を示してもらいたい。(4)日本からの輸入品についてはコンテナ輸送を強化してゆきたい。その為の施設を整備中である。(5)木材等の品質を更に向上したい(6)北方問題は今後更に検討すべきである。(7)ヘリコプターの輸出の為日本でのショーを予定して居る。等の事が相互の間で話し合われたのでした。翌8日にはレニングラードから戻ったB班と合流、ソ日協会と全ソ商工会議所を訪問しました。ソ日協会の会長ネ

ステロク氏は前の全ソ商工会議所会頭で経済界の重鎮と云はれる人でした。日本からソ日協会の招きで訪ソする人はかなりの数にのぼり、日ソ間の貿易促進に大きな役割を果たして居ります。七尾の市長さんも、ソ日協会の招待によるものだったことでした。

ソ連の金融機関—ソ連の金融機関にはゴスバンク(ソ連邦国立銀行)、ヴェシトルバンク(ソ連邦外国貿易銀行)、ストロイバンク(全連邦投資銀行)、ズベルカッサ(ソ連邦国家労働貯蓄金庫)の4種類があり、何れも国営である事は申すまでもありません。モスクワの街をガイドに案内してもらった後、ゴスバンクとズベルカッサを見たいものと、はじめて一人あるきをしてみました。目指すゴスバンクの本店は予想を裏切って小さな2階建の質素な建物でした。タクシーから降りて写真を撮ったところ、運転手は「ニエリジャー(いけない)」と云ってご機嫌ななめ、ズベルカッサに連れて行ってくれと頼みましたがことわられてしまいました。ゴスバンクは中央銀行と普通銀行を合わせた様なもので、通貨発行、企業に対する融資の外、企業間の決済事務を行ないます。

ソ連では企業間の決済はすべてゴスバンクの口座振替によって行なわれ、企業間で直接支払うことはないという事です。帰途ハバロフスクに立ち寄った時、手持ちのソ連通貨を円に両替する為ゴスバンクの支店を訪れました。営業室の出入口には制服に身を固めた警備隊員が2名立って居り、写真はとらしてくれません。窓口にはすべて格付が施されて居りました。ズベルカッサは個人を対象にしたもので、預金や税金の受け入れ、年金や国家扶助金の支払い、公共料金の自動振替などをあつかって居り、日本の郵便局並みのものがほとんどです。預金の種類は定期預金、要求払預金、割増金付預金の外、条件預金というのがあります。利率は6ヶ月以上で年3%、要求払預金は年2%で、日本のそれより下廻って居りますが、税金はないとの事でした。

対ソ貿易の現況—ソ連には日本の商社に代るものとして貿易省の傘下に約40の公団があり、それぞれの担当分野で貿易の突務を行なつて居ります。昭和45年度に於ける我国の対ソ貿易額は輸出1,227億円、輸入1,732億円合計2,959億円で、総貿易額の2.1%とで、此の中北海道をみまずと輸出は2品目3億6千万円で、酒類の300万円を除けばあとは全部ゴム長靴であります。輸入は8品目で123億52百万円で、主なものは石炭丸太材、鉄鋼くづ、魚介類、石油となっております。特徴的なことは輸出にくらべて輸入が圧倒的に多いことで、これはソ連が必要とする物が道内ではあまり生産されていない事が原因と考えられます。又輸出品目が年々減少の傾向にあることも注目される一つでありましょう。

以上取りとめのない事を申しましたが、今回の訪ソで知った事は、ソ連との貿易を推進する為には、資本主義諸国家と違い、商社の方に委せておいてはだめで、知事、市長などの地方公共団体の首長が乗り込んで、トップ同志の直接の交渉がなければ思いう様に運ばないという事実を知り得た事でした。

◎出席報告

	会員数	出席人数	欠席人数	他クラブ出席人数	出席率(%)
46. 10. 20	45名	33名	12名		
46. 10. 13	45名	30名	15名	15名	100%
在函クラブ	(10/7) 函館R.C. 92.62%	(10/12) 函館東R.C. 96.47%	(10/8) 函館五稜郭R.C. 100%		

9月平均出席率—函館R.C. 93.55%、函館東R.C. 98.52%、函館北R.C. 100%、函館五R.C. 100%

次回例会日
「11月3日祝日に付休会」
次々回例会日
11月10日 プログラム 未定

柴田会報委員長

第2回 クラブ協議会

★日時 昭和46年10月15日 午後6時 ★場所 例会場
★出席者 船矢健喜智会長、市川芳夫副会長、高杉重雄幹事、新善次、岩塚陽一、関本宏山本克己、山田英彦、小村修平、森秀樹、柴田量司、神原金一、青柳喜一、野村宣市、深瀬鴻一郎、宮崎英一、本間利雄会員 以上17名
船矢会長挨拶の後、各委員長により現在迄の活動状況報告並びに今後の活動計画についての説明が行なわれ、定刻を過ぎるまで活発な討議が交はされて有意義なアッセンブリーを行なった。望むならば出席人員のもっと多からむことを。次回アッセンブリーを期待しよう。

The Weekly Report of Hakodate North R.C.

事務所 函館市若松町15-7拓銀ビル9階
ロータリー合同事務所 例会場 函館市若松町拓銀ビル7階
五島軒駅前支店
☎ (0138) 23-3870 例会日 毎週水曜日 12:30-13:30



1971. 11. 10

第372回 例会

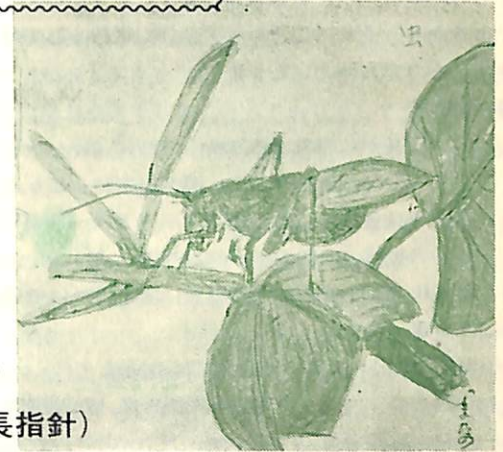
1971~1972 第17号

Good Will

Begins With You

善意は先づあなたから

(ブライトホルツ R. I. 会長指針)



俣野純夫 会員

本日のプログラム

「文化財の保護」

北海道立函館工業高等学校建築科長 川嶋 龍司氏

第370回 例会記録

- | | | | |
|----------|------------|---------------|-----------|
| ◎司 会 | 船矢健喜智会長 | ◎斉 唱 | それこそロータリー |
| ◎ゲ ス ト | 第351地区ガバナー | 富田 恭氏 | |
| | 第351地区 幹事 | 森岡 勝氏 | |
| ◎ビ ジ タ ー | 大阪天満橋R.C. | 松本 政雄君 (昆布販売) | |
| | 洞 爺 湖R.C. | 菅谷 敬三君 (喫茶店) | |
| | 函 館R.C. | 斉藤 正則君外8名 | |
| | 函 館 東R.C. | 柴田 英正君外7名 | |
| | 函 館 五R.C. | 松浦 百秋君外4名 | |

◎会長報告

この例会に先立ちまして、会長・幹事会及びアッセンブリーを行ないました。